
令和3年度 事業報告書・概要版

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)



令和4年6月
地方独立行政法人 神戸市民病院機構

市民病院機構・各病院位置図



※令和4年1月1日現在の人口

※ 本文のグラフや表における「H」は平成、「R」は令和の元号を表します

神戸市民病院機構について

◆神戸市民病院機構の目的

- ✓ 地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的とする。

◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人 神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目2番地
設立年月日	平成21年4月1日
役員数	13名（令和4年3月31日時点）
職員数	3,494名（令和4年3月31日時点）

◆役員名簿

（令和4年3月31日時点）

役職	氏名	備考
理事長	橋本 信夫	
理事	木原 康樹	中央市民病院長
理事	有井 滋樹	西市民病院長
理事	京極 高久	西神戸医療センター院長
理事	栗本 康夫	神戸アイセンター病院長
理事	小倉 修弘	法人本部長
理事	植村 武雄	小泉製麻株式会社会長・神戸商工会議所副会頭
理事	千原 和夫	兵庫県立加古川医療センター 名誉院長
理事	小西 郁生	京都医療センター名誉院長
理事	南 裕子	神戸市看護大学長
理事	村上 雅義	神戸医療産業都市推進機構専務理事
監事	藤原 正廣	弁護士（京町法律事務所）
監事	岡村 修	公認会計士・税理士 （岡村修公認会計士税理士事務所）

神戸市立医療センター中央市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：768床

一般病床：750床（うち、ICU・CCU：22床/SCU：12床/HCU：28床）

感染症：10床

MPU：8床

- ✓ 救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れる。
- ✓ 地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組むとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じて行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行う。



地域医療
支援病院

救命救急センター
指定病院

病院機能評価
認定施設

災害拠点病院

地域がん診療
連携拠点病院

第一種感染症
指定医療機関

総合周産期母子
医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。

◆基本方針

- ①患者の生命の尊厳と人権を尊重する
- ②十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供する
- ③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組む
- ④24時間体制での救急医療を実践する
- ⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図る
- ⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進める

◆診療科（令和4年3月31日時点）

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科・新生児科、皮膚科、外科・移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合内科

神戸市立医療センター西市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：358床

一般病床：358床（うち、HCU：7床）

- ✓ 市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行う。
- ✓ 地域医療支援病院として、専門性の高い医療を提供するとともに、急性期中核病院として近隣の医療・介護機関と緊密な連携のもと、在宅医療を支援する。



地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

がん診療連携拠点
病院に準じる病院

認知症疾患医療
センター

◆基本理念

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

◆基本方針

- ①患者さんの人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ②医療安全体制の充実を図り、患者さん及び職員の安全確保に努めます。
- ③救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④高度・専門医療を充実させ、市民病院として地域医療に貢献します。
- ⑤地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

◆診療科（令和4年3月31日時点）

消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

神戸市立西神戸医療センター

◆病院の特徴と役割

病床数：475床

一般病床：425床（うち、ICU・CCU：10床）

結核病床：50床

- ✓ 神戸西地域（西区・垂水区・須磨区）に根づいた安心・安全な医療をめざすことを理念とし、神戸西地域の中核病院として、救急医療、高度専門医療、結核医療を安定的・持続的に提供する。
- ✓ 地域連携を促進し、地域完結型医療を目指す。



地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

地域がん診療
連携拠点病院

結核指定
医療機関

◆基本理念

神戸西地域
に根づいた
安心・安全な
医療をめざし
ます

◆基本方針

- ① 急性期病院として、マンパワーや設備のさらなる強化に努め、救急医療や高度専門医療を充実させることで地域住民の期待に応えます
- ② 市民病院として、結核医療や災害時の医療に対応します
- ③ 地域の中核病院として、地域連携を促進し、地域完結型医療をめざします
- ④ 市民の生命と健康を守るため、市民病院間相互の協力連携を推進します
- ⑤ 患者さんを中心としたチーム医療を行うとともに、患者さんや家族に対して誠実な態度で接します
- ⑥ 患者さんが納得できるわかりやすい説明を心がけ、患者さんや家族の自己決定権を尊重します
- ⑦ 職員が相互に協力し合い、常に改善を心がけ、医療水準・職場環境・経営体制すべてにおいてさらに誇れる病院を確立します

◆診療科（令和4年3月31日時点）

救急科、総合内科、脳神経内科、腎臓内科、内分泌・糖尿内科、免疫血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

神戸市立神戸アイセンター病院

◆病院の特徴と役割

病床数：30床

一般病床：30床（眼科）

- ✓ 眼科領域の再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて享受できる最先端の高度な眼科病院として、標準医療から最先端の高度医療まで高水準の医療を安定的に提供する。
- ✓ 眼疾患に係る臨床研究及び治験推進の臨床基盤としての役割を果たす。



国家戦略特区指定

◆基本理念

神戸市立神戸アイセンター病院は、市民のそして当院を受診する全ての患者さんの眼の健康を守るため、眼科中核病院として標準医療から高度先進医療まで提供するとともに、眼に関するワンストップセンターの核として患者さんの思いを繋げる役割を果たします。

◆基本方針

- ① 安全で質の高い医療を提供し、失明の防止とQOV（見え方の質）の向上につなげます
- ② 世界最先端の高度医療を取り入れ、地域社会・医療機関につなげます
- ③ 医療を通じて、医学研究から生活支援までつなげます
- ④ 患者さんの思いを理解し、希望につなげます
- ⑤ 職種間の一体感を持ち、人が育ち働きがいある職場づくりにつなげます
- ⑥ 職員一人ひとりが経営感覚をもち、健全な病院運営につなげます
- ⑦ そして、未来につなげます

決算概要

◆◆法人全体◆◆

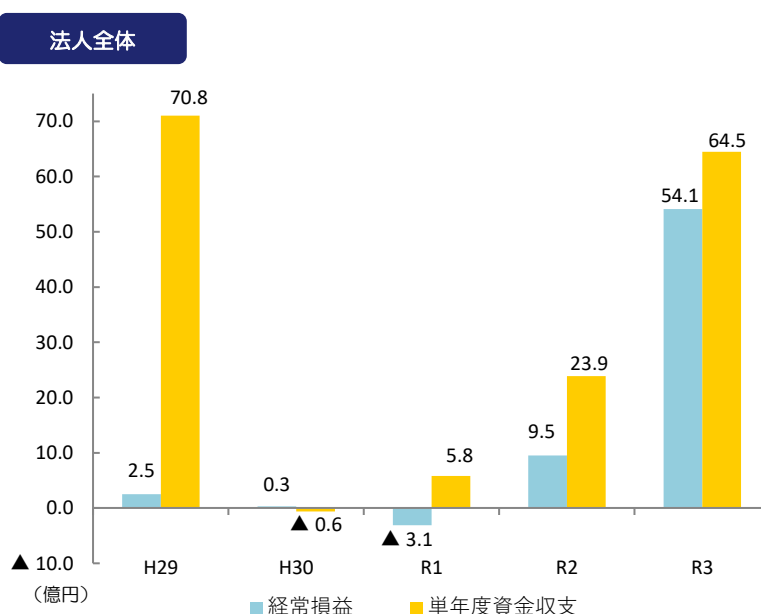
令和3年度は、市民病院機構の全職員が一丸となって新型コロナウイルス感染症に対応し、神戸市の同感染症対応の中核的な役割を担うとともに、当機構の強みである高度医療の提供を継続しました。

同感染症患者受入れのための空床確保や看護体制確保のための一部病棟閉鎖、手術の延期等により診療機能の制限は生じましたが可能な限り診療を継続したことで医業収支は対前年度比で18億円の改善となりました。これらに加え、国・神戸市の空床確保や医療物資購入に対する支援事業が継続されたことにより、十分な補助収入等を確保できました（対前年度比+29億円）。

また、同感染症の拡大をきっかけに生じた受診控えや今後の人口減少社会など、病院を取り巻く厳しい環境においても市民の命と健康を守る役割を果たしていくために、経営改善の取り組みを進めるとともに、DX推進や新興感染症対策などの患者サービス・医療機能の向上に繋がる事業への投資を計画的に実施しました。

これらの結果、令和3年度は機構全体で経常損益、当期純損益は54億円の黒字、単年度資金収支は純損益の改善により65億円の黒字となりました。

グラフ1：経常損益・単年度資金収支の推移（法人全体）



※H29の資金収支には、神戸市都市整備等基金からの50.5億円の受入を含む。

◆◆病院別◆◆

① 中央市民病院

新型コロナウイルス感染症の重症患者の受入に伴い、手術や入院が大幅に制限される中、臨時病棟を活用し、効率的な病床運営と感染対策に努めたことで患者数は増（対前年度比 入院：+11.6%、外来：+8.9%）、医業収益も増加しました。これらに加えて、同感染症対応に関する補助収入を確保できたことにより経常黒字となりました。

② 西市民病院

新型コロナウイルス感染症患者の受入に伴う一般病床の減などにより入院患者数は減（対前年度比 入院：▲8.8%、外来：+0.5%）、医業収益も減少しました。一方で各種加算の算定率向上や医薬品費削減など経営改善に積極的に取り組んだこと、同感染症に関する補助収入を確保できたことにより経常黒字となりました。

③ 西神戸医療センター

新型コロナウイルス感染症患者の受入に伴う一般病床の減などにより入院患者数は減（対前年度比 入院：▲4.0%、外来：+2.1%）しましたが、単価の増もあり医業収益は増加しました。これらに加えて、診療体制の拡充など収益増加に取り組んだこと、同感染症に関する補助収入が確保できたことにより経常黒字となりました。

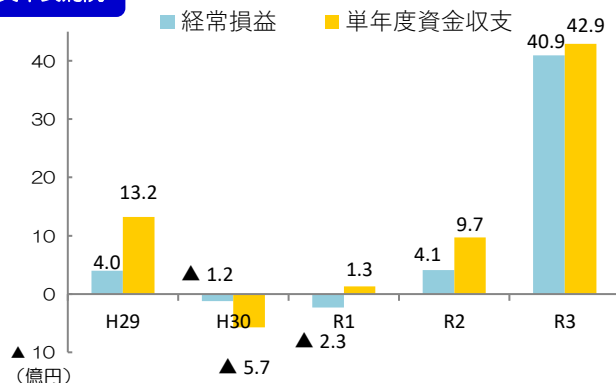
④ 神戸アイセンター病院

新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、療養環境への十分な配慮のもと、各部門計画での取り組みを始めとして、増患対策に取り組みました（対前年度比 入院：+15.9%、外来：+15.4%）。

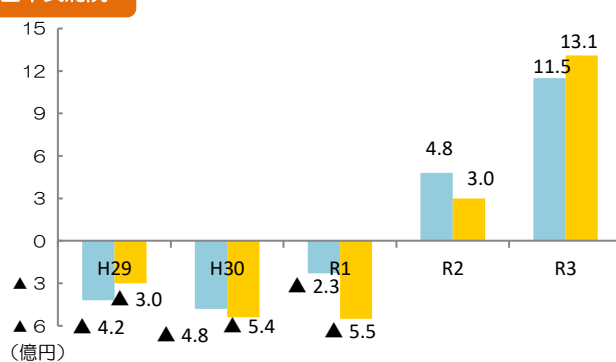
また、硝子体注射枠の増加や手術枠の見直しなどによる増収と材料費の削減等に取り組んだことにより、経常黒字を確保しました。

グラフ2：経常損益・単年度資金収支の推移（病院別）

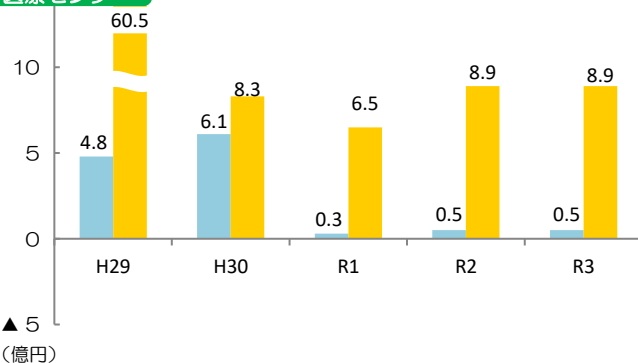
中央市民病院



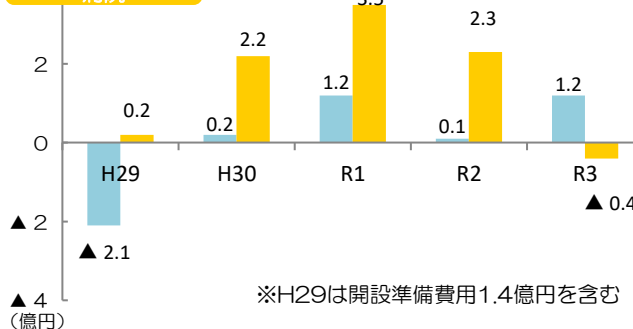
西市民病院



西神戸医療センター



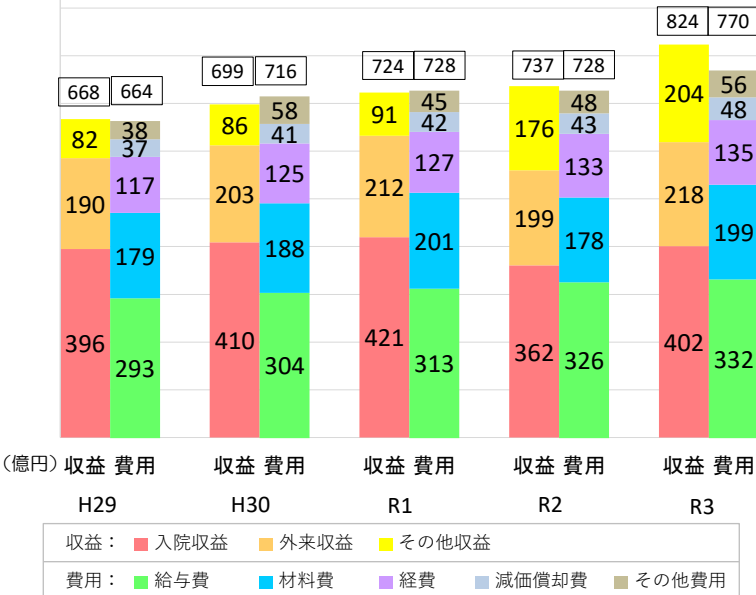
神戸アイセンター病院



◆◆財務諸表の概要◆◆

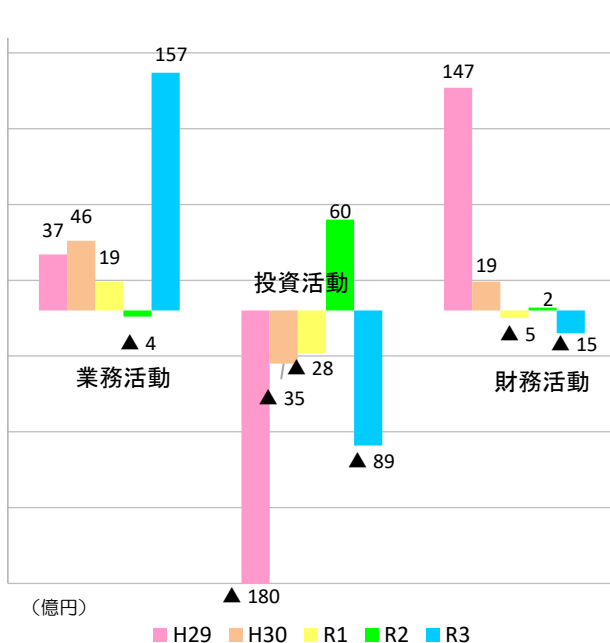
グラフ3：損益計算書

各事業年度における法人の経営成績



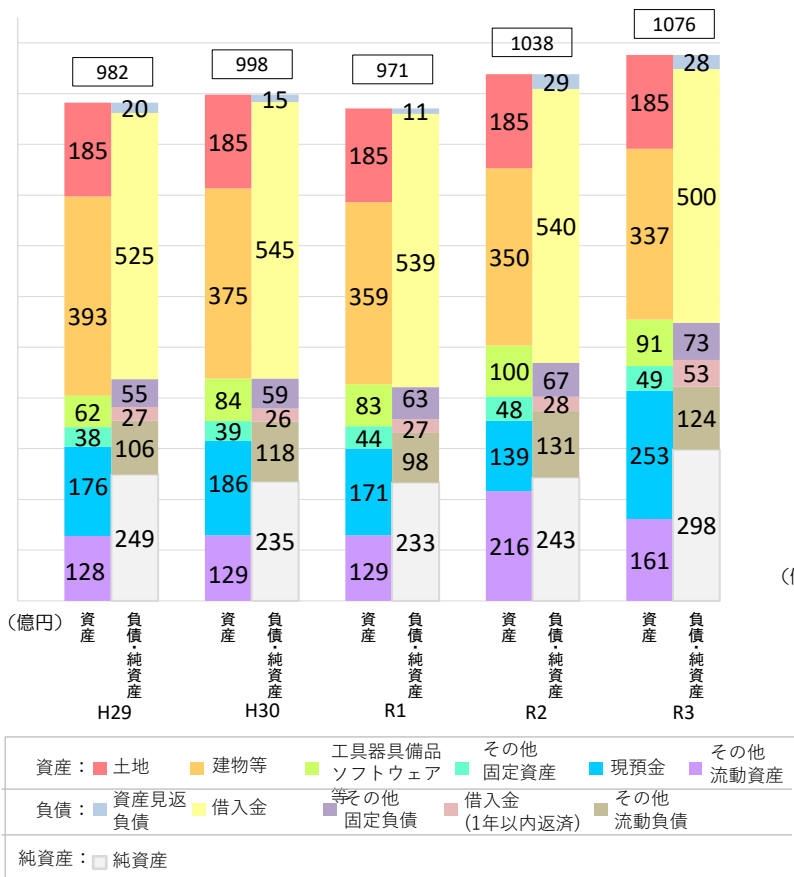
グラフ4：キャッシュ・フロー計算書

各事業年度の現金及び預金の増減を活動区分別に表示



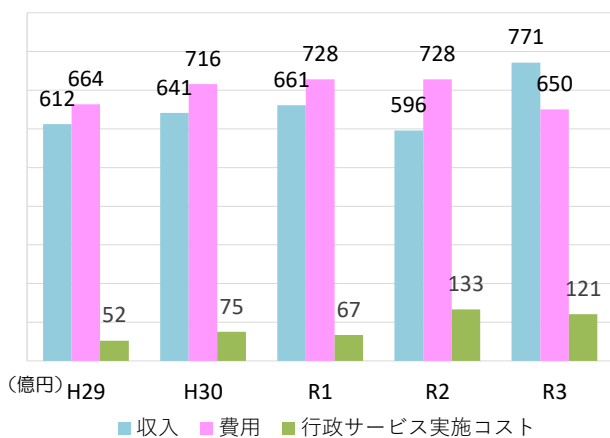
グラフ5：貸借対照表

各事業年度における法人の財政状態



グラフ6：行政サービス実施コスト計算書

納税者が実質的に負担しているコスト



令和3年度末の現金及び預金残高は253億円となっています。

令和3年度末の行政サービス実施コストは121億円となりました。

新型コロナウイルス感染症への対応

1. 診療体制について

中央市民病院は市内で唯一の新型コロナウイルス感染症重症等特定病院※として、令和2年11月に運用開始した臨時病棟を活用しながら、重症・中等症患者を中心に医療を提供しました。

西市民病院、西神戸医療センターにおいては専用病棟を設置し軽症・中等症患者の受入を行い、感染拡大時はさらに受入病床を拡大し対応しました。アイセンター病院では新型コロナウイルス感染症の患者で眼科緊急手術等が必要な場合への対応として、PCR検査体制や陰圧化が可能な個室・手術室の確保等を行いました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・入院調整中の自宅待機者への往診・電話診療（4月～5月）（中央・西・西神戸）
- ・宿泊療養施設への往診（8月～9月）（中央）
- ・宿泊療養施設や紹介患者を対象とした抗体カクテル療法センター※を開設（8月）（中央）
- ・ワクチン大規模接種会場等への出務（中央・西・西神戸・アイ）
- ・神戸市コロナ後遺症相談ダイヤルからの紹介（11月～）等による診察（中央・西・西神戸）
- ・神戸市の新型コロナウイルス感染症外国人診療事業の受託（1月～）（中央・西・西神戸）



写真1 自宅療養への往診



写真2 往診に向けた準備

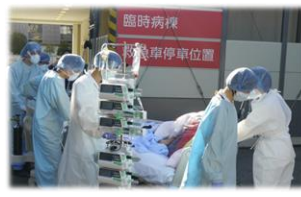


写真3 コロナ病棟への搬送



写真4 院内でのワクチン接種



写真5 治療の様子



写真6 PCR検査



写真7 発熱外来用のテント



写真8 コロナ病床の様子

表1：入院患者の状況

令和4年3月31日 時点

病院	コロナ受入病床 最大確保時	入院患者総数		退院等（死亡）		退院等（治癒等）	
		累計	(R3年度)	累計	(R3年度)	累計	(R3年度)
中央	46床	1,368人	(772人)	154人	(96人)	1,184人	(700人)
西	43床	802人	(494人)	102人	(68人)	691人	(436人)
西神戸	45床	996人	(628人)	65人	(51人)	919人	(588人)
計	134床	3,166人	(1,894人)	321人	(215人)	2,794人	(1,724人)

※3病院の入院患者総数には、市外受入患者及び他院から転院した患者を含む。

※参考：神戸市の入院患者総数累計8,919人（R3年度6,977人）

<新型コロナウイルス感染症重症等特定病院>

- 兵庫県の定める新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針のなかで規定される医療機関。重症者対策を推進することとされ、兵庫県内では神戸市立医療センター中央市民病院のほかにも県立尼崎総合医療センターが指定されている。

<抗体カクテル療法>

- 軽症・中等症患者の重症化を防ぐために、体内に中和抗体薬を注入する治療法で、2種類の抗体を混ぜ合わせて使用することから抗体カクテル療法と呼ばれている。中央市民病院では抗体カクテル療法センターを開設し自院の入院患者以外に宿泊療養施設の患者や地域の医療機関からの紹介患者に対し治療を実施した。

2. 医療機能の維持

新型コロナウイルス感染症の対応を行いながら通常医療を維持するため、施設改修や設備整備を実施するほか、看護師の新規採用者数を増やすなど人員確保や集中治療に対応可能な人材育成にも努めました。感染拡大期においてはコロナ受入病床を拡大したこともあり、通常医療の入院・手術等の制限は生じましたが、可能な限り診療を継続しました。

また、長期にわたる対応により職員の身体的・精神的な負担が大きくなっており、定期的なストレスチェックやメール相談・電話相談等を実施し、職員の心身の健康確保に努めました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 救急外来にCT室新設等の感染対策工事を実施（西神戸）（写真9）
- ・ 自宅に居ながら面会が出来る面会システムを構築（中央）（写真10）
- ・ 全国から計28名の看護師派遣を受入れ（写真11）
- ・ 全機構職員に対し慰労金を支給



写真9 新設したCT室（西神戸）



写真10 オンライン面会のご案内パンフレット（中央）



写真11 派遣看護師への感謝状

3. 地域との連携・情報発信

新型コロナウイルス感染症対応の経験や取り組みを伝えるため、医療従事者向けのシンポジウムやWEB形式での地域連携セミナー（写真12）、動画配信などを通じて地域への情報提供に努めました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策や診療ノウハウをまとめたマニュアル本を出版（中央）（写真13）
- ・ 動画配信を通じて市民・地域医療機関向けに情報発信（写真14）
- ・ 神戸市の市民向けメッセージ動画に参加（写真15）

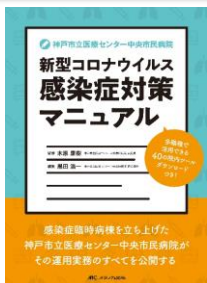


写真13 中央が出版したマニュアル本

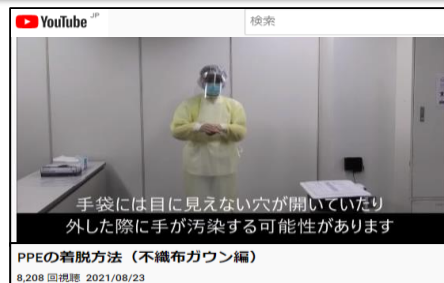


写真14 動画配信（西市民）



写真15 動画メッセージ（神戸市HPより）



写真12 地域連携セミナー

神戸市立医療センター中央市民病院

1. 中央市民病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮

新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行いながらも、院内全体の病床運営の効率化に努め、救急医療の提供を継続しました。

また、厚生労働省より発表された「全国救命救急センター評価※」において、8年連続で1位に選ばれました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・全国救命救急センター評価8年連続1位（写真16）
- ・各種ホットライン※を継続
- ・救急車応需率を高い水準で維持（表2）

グラフ7：救急患者数の推移（人）

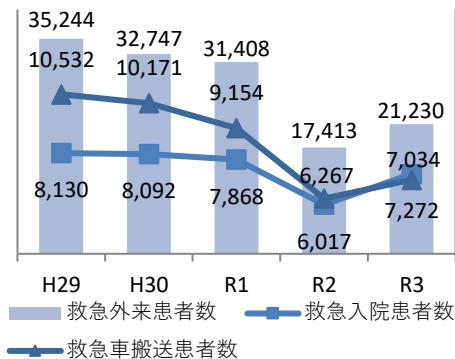


写真16 全国救命救急センター評価

(2) メディカルクラスターとの連携による先進的ながん治療等の提供

メディカルクラスター※の中核病院として、高度専門病院との病病連携に引き続き取り組みました。（グラフ8）

がん治療については、手術支援ロボットによる身体への負担が少ない手術や化学療法による治療、がんゲノム医療等も活用しました。（写真17）

◆令和3年度の主な取り組み

- ・メディカルクラスター内でのがん医療連携
- ・難治性のがん治療CAR-T細胞療法※（キムリア®）の継続
- ・専任の遺伝カウンセラーによる家族性腫瘍相談外来を実施

表2：救急車搬送応需率（%）

年度	H29	H30	R1	R2	R3
応需率	98.9%	99.2%	98.7%	96.7%	92.7%

グラフ8：中央市民病院の周辺医療機関との連携件数の推移（件）

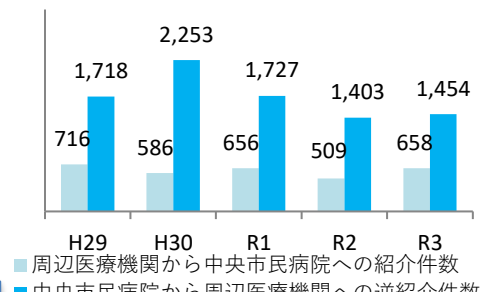


写真17 手術支援ロボットの手術

<全国救命救急センター評価>

厚生労働省において平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実施されている。診療体制や患者受入れ実績等に関する報告に基づき点数化される。

<ホットライン>

地域医療機関からの受入れ要請や相談に対応する為の専用電話回線で、救急受付を通さずに直接診療科の担当医師に繋がる。現在、脳卒中、胸痛、産科、小児科、心臓血管外科のホットラインを設置している。

<メディカルクラスター>

神戸医療産業都市において高度医療や専門医療を提供する医療機関群のこと。中央市民病院は、その中心的役割を担っている。

<CAR-T細胞療法>

白血病やリンパ腫の一部に対する新たな治療法。白血球の一種であるT細胞を遺伝子導入により改変し、患者に投与することで、患者自身の免疫システムを利用してがんを攻撃する治療法。

(3) 神戸医療産業都市の中核機関として 治験・臨床研究の更なる推進

医師主導治験や特定臨床研究*の支援体制の強化や、「認定臨床研究審査委員会(CRB)」の安定的な運営に努め、治験・臨床研究を推進しました。(グラフ9)(表3)

新型コロナウイルス感染症に関する医療産業都市進出企業との共同研究を通して、**中和抗体の作製につながったほか、診断薬が承認**されました。

◆令和3年度の主な取り組み

- 品質管理部門*を設置し、研究の進捗管理を行うことで研究支援を強化

(4) 県立こども病院等と連携した高度な 小児・周産期医療の提供

総合周産期母子医療センター*として、産科合併症や合併症妊娠等のハイリスク妊娠・出産への対応を行いました。(グラフ10、11)(写真18、19)

◆令和3年度の主な取り組み

- 県立こども病院との相互補完の連携体制
- 連携登録施設との情報共有、ホットラインの継続



写真18 母体・胎児集中治療室(MFICU)



写真19 産婦人科の4床室

グラフ9：治験・臨床研究件数の推移(件)

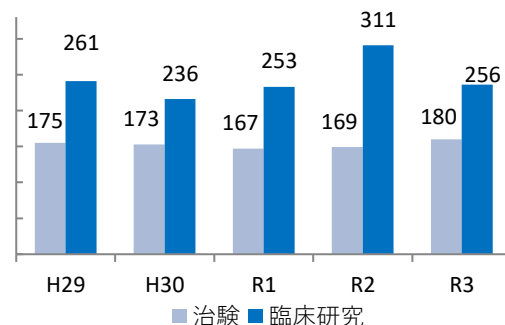
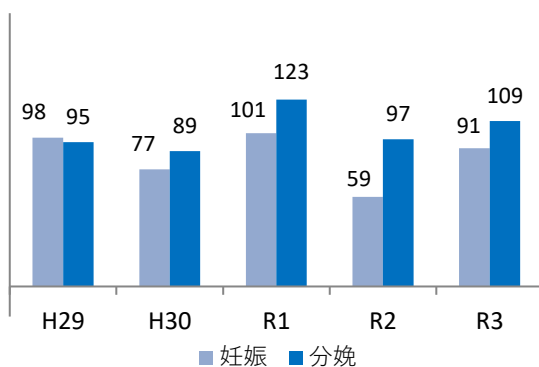


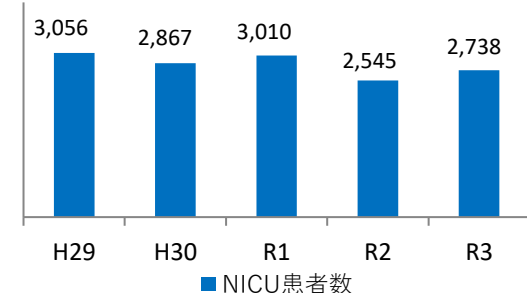
表3：特定臨床研究・医師主導治験実施件数(件)

項目	R1	R2	R3
特定臨床研究	82	86	84
うち当院が研究責任者	4	8	7
医師主導治験	11	13	13
うち当院が研究責任者	3	3	1

グラフ10：ハイリスク妊娠及びハイリスク分娩件数(件)



グラフ11：NICU患者数(人)



<特定臨床研究>

- 治験・臨床研究実施基準遵守義務により質が担保された臨床研究のうち、「未承認あるいは適応外の医薬品等を使うもの」「製薬会社等から資金提供を受けるもの」のいずれかに該当する研究。

<品質管理部門>

- 各種法令指針に基づいて研究者が実施した臨床研究を病院として適正に管理することで、臨床研究に参加された患者の保護や信頼性のある研究に努め、臨床研究の質を確保するための部門。

<総合周産期母子医療センター>

- 新生児集中治療管理室(NICU)や母体・胎児集中治療簡易室(MFICU)を備え、重い妊娠中毒症や切迫早産等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応が可能な医療機関。

(5) 第一種感染症指定医療機関※としての役割の発揮

市内唯一の第一種感染症指定医療機関として、市、県及び地域医療機関と連携を図り、速やかに患者を受入れられる体制を整備し、市民の安全確保に取り組みました。

※新型コロナウイルス感染症への対応は別項目(P7)

◆令和3年度の主な取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症への対応(写真20)
- ・新型コロナウイルス感染症対策や診療ノウハウをまとめたマニュアル本を出版(写真21)



写真20 新型コロナウイルス感染症患者対応の様子

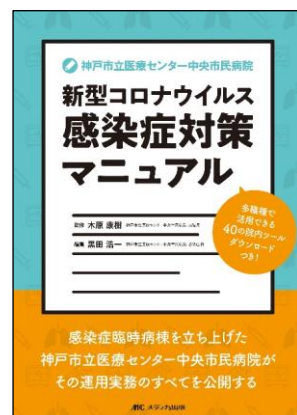


写真21 出版したマニュアル本

2. 共通の役割

(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

eラーニングを用いた医療安全研修の開催、各種医療安全マニュアルの見直し及び院内ネットワークへの掲載など、患者が安心・安全に医療を受けることができるよう取り組みました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・C I※・Q I※に関する取り組みをホームページに掲載するとともに、Q I冊子を作成し院内外に配付(写真22)
- ・動画視聴形式にてクリニカルパス※大会を開催(写真23)
- ・医療情報システムの内部監査を実施



写真23 クリニカルパス大会のポスター

グラフ12: クリニカルパス数(件)・適用率(%)

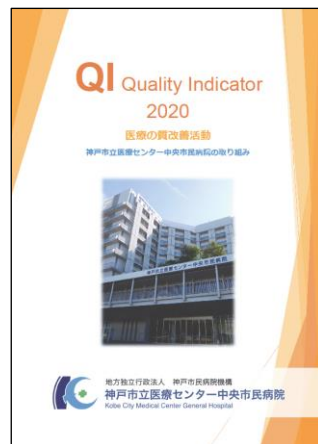
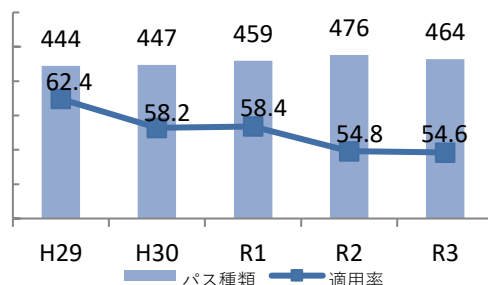


写真22 作成したQI冊子

<第一種感染症指定医療機関>

➤ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律で定められた一類感染症、二類感染症又は新型インフルエンザ等感染症の患者の入院を担当させる医療機関として都道府県知事が指定した病院。

<C I : Clinical Indicator>

➤ 臨床評価指標(クリニカルインディケーター)。病院の機能や診療の状況などについて、様々な指標を用いて具体的な数値として示したものを。指標を分析し改善することで医療の質の向上を図る。

<Q I : Quality Indicator>

➤ 医療の質の指標(クオリティインディケーター)。病院の機能や診療、サービスの質について、様々な指標を用いて客観的な数値で示したものを。指標を分析し改善することで医療の質の向上を図る。

<クリニカルパス>

➤ 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

患者サポートセンターでの相談やセカンドオピニオンを実施するとともに、インフォームド・コンセントの徹底に取り組みました。

患者満足度調査、外来待ち時間調査を実施したほか、接遇マナー&アサーション研修を実施することで、患者サービスの向上に取り組みました。(グラフ13)

◆令和3年度の主な取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症患者対応や面会制限に対応するため、WEB面会予約システムを構築
- ・マイナンバーカードによる医療保険のオンライン資格確認を開始
- ・外来の待合ソファの入れ替え(写真24)

グラフ13：患者満足度調査(とても満足、やや満足の割合)の推移(%)

※R3より回答選択肢を変更

旧：満足・やや満足・やや不満・不満の4段階評価

新：とても満足・やや満足・ふつう・やや不満・とても不満の5段階評価

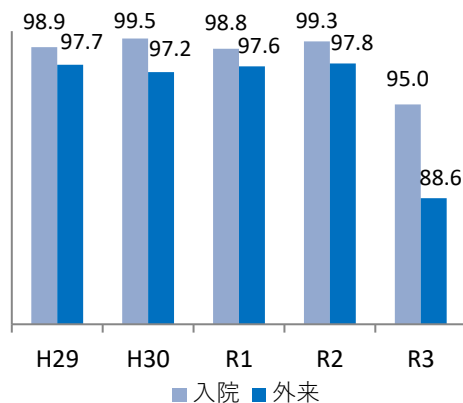


写真24 外来の待合ソファ

(3) 市民への情報発信

患者向け広報誌の「しおかぜ通信」(写真25)を発行するほか、各種マスコミからの取材依頼を積極的に受け入れるとともに、病院ホームページを全面リニューアルすることで、よりわかりやすい情報を発信しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・病院ホームページの全面リニューアル(写真26)
- ・新築・移転10周年記念動画を作成しホームページや市内大型ビジョンで発信(写真27)



写真25 患者向け広報誌「しおかぜ通信」

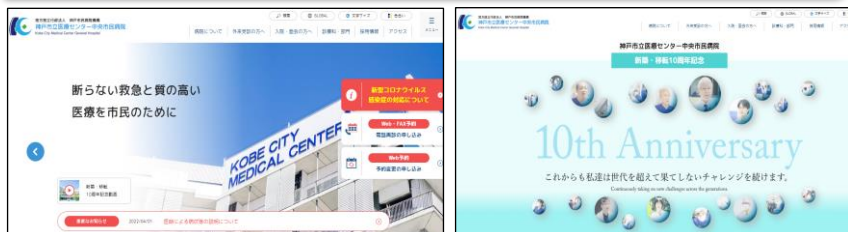


写真26 リニューアルされた病院ホームページ



写真27 新築・移転10周年記念動画

神戸市立医療センター西市民病院

1. 西市民病院の役割を踏まえた医療の提供

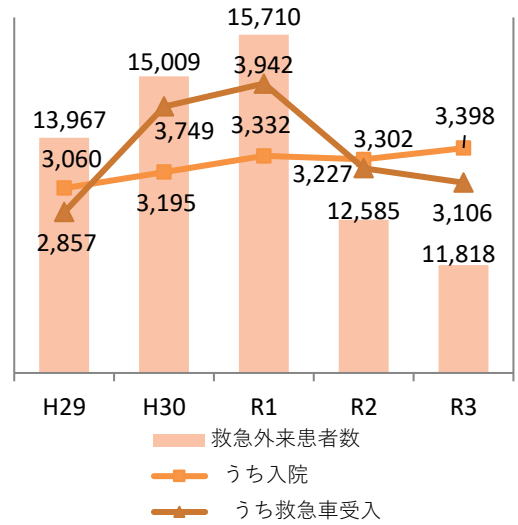
(1) 地域の患者を24時間受け入れる救急医療の提供

全職種・全診療科による連携のもと新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行うとともに、拡張した救急外来を活用し、受け入れ体制を強化することで、安定した救急医療体制を提供しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・拡張した救急外来の活用
- ・自宅から電子カルテを参照できる体制を整備
- ・救急診療ポケットマニュアルを改訂

グラフ14：救急患者数の推移（人）



(2) 地域のハイリスク出産に対応できる周産期医療の提供

市街地西部唯一の周産期対応総合病院として、正常分娩だけでなく基礎疾患等をもつ妊産婦のほか、新型コロナウイルス感染症陽性の妊婦などリスクの高い分娩に対応するとともに、助産師外来（写真28）を継続して実施し、安定的な周産期医療を提供しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・医師を増員し、診療体制を強化
- ・出産時のアメニティの充実や助産師だよりを通じた情報発信（写真29、30、31）
- ・ホームページを改修し、産科特設サイトを開設

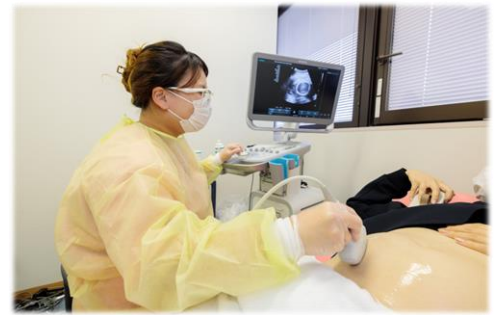


写真28 助産師外来



写真31 出産時のアメニティ



写真29 助産師だより



写真30 院内のフォトブース

(3) 地域需要に対応した小児医療の提供

神戸市が実施する小児二次救急輸番※において長田区で唯一の体制確保を継続し、地域における小児救急医療を安定的に提供しました。

また、小児アレルギー講習会(写真32)や地域の医療職等を対象とした「アレルギー児に対する地域連携の会」をオンラインにて開催しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・医療専門サイトを通じてアレルギー診断などの案内
- ・「アレルギー児に対する地域連携の会」を実施
- ・病児保育室の継続した運営(写真33)



写真33 病児保育室

グラフ15: 小児救急患者数(件)

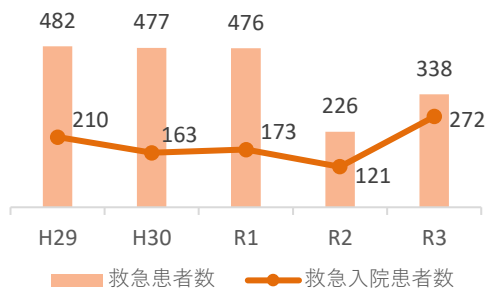
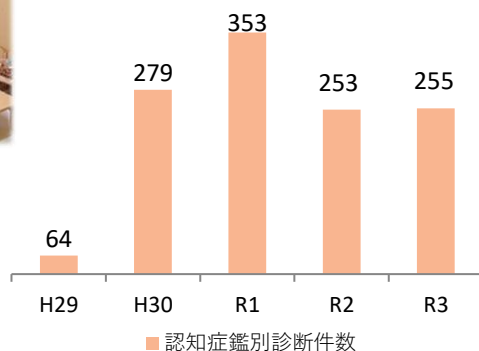


写真32 小児アレルギー講習会

グラフ16: 認知症鑑別診断件数の推移(件)



(4) 認知症患者に対する専門医療の提供

認知症鑑別診断※(グラフ16)や介護生活相談の継続実施により「認知症の人にやさしいまちづくり」に寄与するとともに、認知症への理解を深めるため、映画「ケアニン」※のオンライン上映会を開催しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・音楽療法※を実施
- ・医療介護者向けに多職種事例検討会を開催
- ・映画「ケアニン」のオンライン上映会を開催(写真34)



写真34 上映会案内ポスター

<病院群輪番制>

神戸市内の救急医療確保のため、市内の医療機関が毎日交替で当番病院として救急医療にあたる制度。小児救急医療のほか、内科系、外科系、脳疾患、循環器疾患、整形外科、消化器外科などがある。

<認知症鑑別診断>

CT、MRI、脳血流検査等の画像検査、記憶・知能等に関する心理検査等を行い、認知症の種類や状態を正確に把握すること。

<映画「ケアニン」>

新人介護士が認知症患者と接していく中で、主人公の成長と認知症患者の家族が抱く気持ちを描いた映画。

<音楽療法>

音楽のもつリラクゼーション効果やコミュニケーションを引き出す効果を利用することで、脳の活性化やリラクゼーションを図る治療方法。

(5) 生活習慣病患者の重症化予防に向けた取り組み

糖尿病地域連携パス（グラフ17）やワンタイム連携※の運用による地域医療機関との連携のほか、保険者と協働して地域の事業所において出張糖尿病チェックを実施し、生活習慣病の重症化予防へ貢献しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 動画配信やホームページを通じて糖尿病に関する情報を発信（写真35）
- ・ 医療専門サイトを通じて治療連携にむけた紹介基準などの案内
- ・ 健診勧奨に関するポスターを駅構内に掲示し、健康向上にむけた啓発活動を実施（写真36）

グラフ17：糖尿病地域連携パス連携症例数の推移（件）

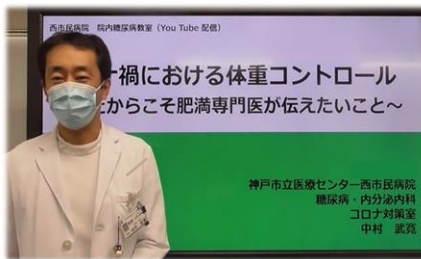
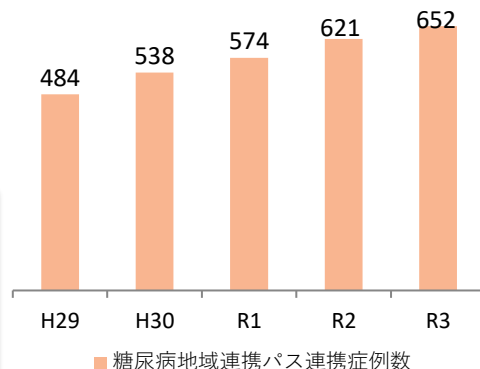


写真35 動画配信による糖尿病教室



写真36 健診勧奨ポスター

2. 共通の役割

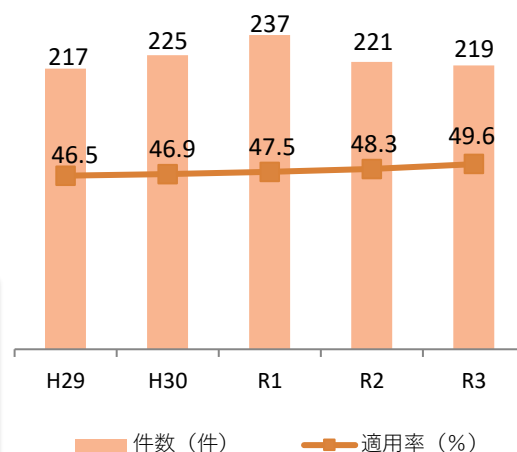
(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

週1回医療安全管理室によるミーティングを実施し、個別事例の分析・共有しました。医療安全教育については、eラーニングを用いた研修を実施することで、医療安全意識の醸成に努めました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 画像診断既読管理システム※の運用開始
- ・ クリニカルパス※委員会によるパス適用率向上の検討（グラフ18）

グラフ18：クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<ワンタイム連携>

地域の医療機関からのニーズが多い「糖尿病薬物療法を選択」および「栄養相談実施」を、病院への一度の紹介受診のみで実施する取り組み。

<画像診断既読管理システム>

画像診断報告書等の見落としを防止するため、主治医が画像診断報告書を確認したか管理するシステム。画像診断報告書等の確認不足による医療事故が発生していることを踏まえ、厚生労働省が注意喚起を行っていた。

<クリニカルパス>

病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

電話予約変更業務を集約化することで、混雑緩和及び外来診療の効率化に努めるとともに、受付待ち時間の短縮や感染予防への寄与などを図るため、放射線受付に自動受付機（写真37）を設置しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・入院セット・紙おむつセットサービスを開始
- ・入院・外来パンフレット（写真38）の刷新・多言語化
- ・マイナンバーカードによる医療保険のオンライン資格確認を開始

(3) 市民への情報発信

市民向け広報誌「虹のはし」を定期的に発行し、医療情報、医療スタッフの役割や新しい取り組みについて情報を発信しました。また、ホームページを全面リニューアル（写真39）するとともに、産科・ダヴィンチに関する特設サイト（写真40）を開設しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・患者向け教室の開催や動画配信を活用した情報発信（写真41）
- ・利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」を定期的に発行

グラフ19：患者満足度調査（非常に良い、良いの割合）の推移（%）

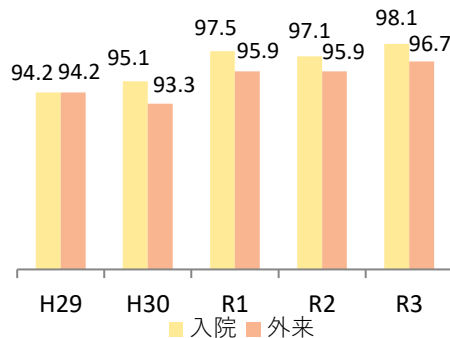


写真37 放射線受付の自動受付機



写真38 刷新されたパンフレット



写真39 リニューアルされたホームページ



写真40 産科・ダヴィンチ特設サイト

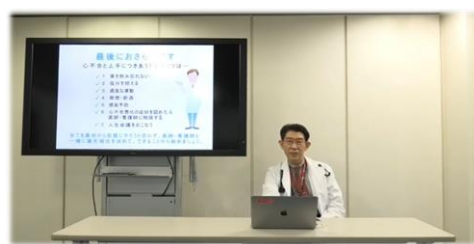
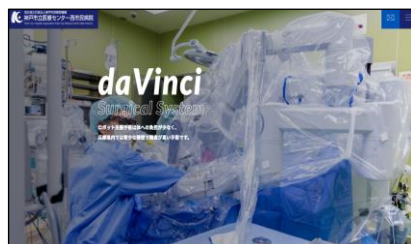


写真41 動画配信による市民講座

3.西市民病院の建替え整備について

神戸市と連携し有識者会議を開催するとともに、市街地西部の中核病院としてのあり方について検討を行いました。

有識者会議において、今後も市街地西部の中核病院としての役割を果たしていくためには、移転新築が望ましいとの報告書が提出されました。

この報告書や市民及び議会の意見を踏まえ、西市民病院の再整備について、市と連携し基本方針を策定するとともに、市街地西部の中核病院として今後担うべき役割や診療機能の方向性をとりまとめた基本構想を策定しました。

◆令和3年度の主な取り組み

神戸市と連携し、以下の取組みを実施

- ・有識者会議を開催し、同会議より移転新築が望ましいとの報告書が提出された(写真42、43)
- ・再整備についての基本方針を策定(写真44)
- ・今後担うべき役割や診療機能の方向性をとりまとめた基本構想を策定

◆建替え整備にかかる検討

2020年8月 ～2021年4月	市街地西部の中核病院のあり方検討に係る有識者会議開催(計5回開催)
2021年5月	有識者会議より市長へ報告書を提出
2021年6月	神戸市より基本方針(案)を公表
2021年8月	パブリックコメントの結果を踏まえ、基本方針を策定
2021年11月	基本構想を策定

◆今後の想定スケジュール

令和4年度	基本計画の策定
令和5年 ～6年度	基本設計・実施設計
令和7年度～	建築工事
令和10年度頃	新病院開院 (開院まで現病院の運営は継続)



写真42 有識者会議



写真43 有識者会議より報告書の提出



写真44 基本方針案の発表

神戸市立西神戸医療センター

1. 西神戸医療センターの役割を踏まえた医療の提供

(1) 地域の医療機関と連携した24時間体制での救急医療の提供

新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行うとともに、救急医療体制の制限を最小限に留めながら、市民の生命を守ることに努めました。

救急搬送患者の受入れに至らなかった理由を適時議論するとともに、各診療科長へ受入れ促進を図りました。

また、救急外来に感染対策と迅速な初療診断に必要なCT室を整備するとともに、救急外来の改修工事に着手しました（令和4年4月末に完成）。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 救急隊立会いの下、救急受入訓練及び意見交換を実施
- ・ 兵庫県救急医療・救急業務功労者表彰を受賞（写真46）

グラフ20：救急患者数の推移（人）

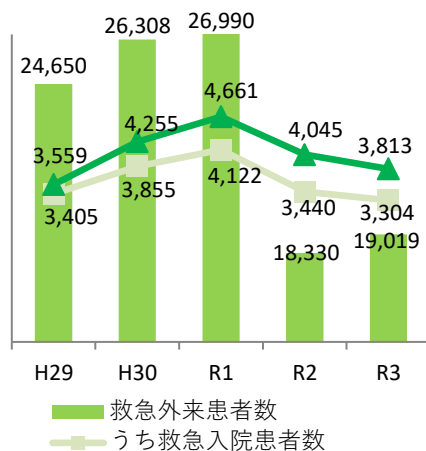


写真45 救急外来の改修工事（完成後）

(2) 地域における小児救急・小児医療の拠点機能の提供

新型コロナウイルス感染症蔓延期においても、連日の小児救急外来を継続するとともに、毎週土曜日と第2、第3水曜日の小児二次救急輪番※を担当しました。

また、救急外来の受入れ時間中に要請のあった救急車は概ね100%受入れました。（グラフ21）

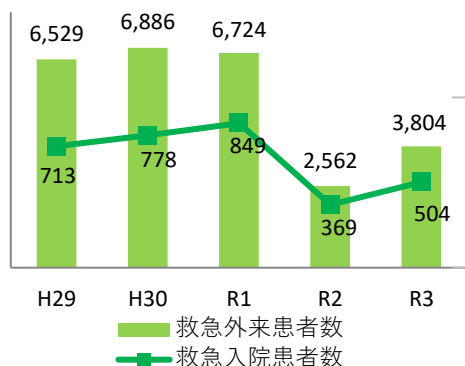
◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 全ての曜日の小児救急の受入れ継続
- ・ 毎週土曜日と第2、第3水曜日の小児二次救急輪番を担当
- ・ 明石市や三木市などの周辺地域も含めて小児救急体制を安定的に提供



写真46 兵庫県救急医療・救急業務功労者表彰

グラフ21：小児（15歳以下）救急患者数の推移（人）



<病院群輪番制>

- ▶ 神戸市内の救急医療確保のため、市内の医療機関が毎日交替で当番病院として救急医療にあたる制度。小児救急医療のほか、内科系、外科系、脳疾患、循環器疾患、整形外科、消化器外科などがある。

(3) 地域周産期母子医療センター機能の提供

地域医療機関での対応が困難な合併症妊娠や切迫早産等のハイリスク妊娠・ハイリスク分娩（全分娩の約29%）の受入れ、32週以降の母体搬送や新型コロナウイルス感染症妊婦を受入れる等、質の高い周産期医療の提供を継続しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 出産早期の育児不安の解消を図るため、**産後2週間健診を導入**（写真47）



写真47 産後2週間健診

(4) がん患者への集学的治療の提供と幅広い支援

国指定の地域がん診療連携拠点病院として、より一層の診療の質の向上を図るため、「**緩和ケアセンター**」を**設置**（写真48）したほか、引き続き、手術支援ロボット（ダヴィンチ）などによる身体への負担の少ない手術の提供にも努めました。（表4）

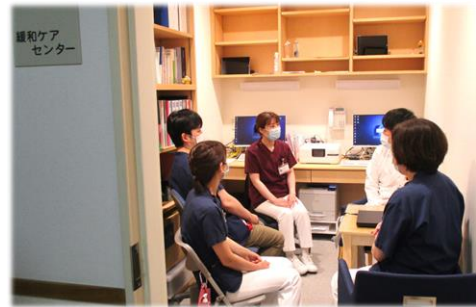


写真48 緩和ケアセンター

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ がん相談支援センターによるがん患者の就労支援への適時適切な取り組み等の継続（写真49）
- ・ 外来化学療法センター及び病棟におけるがん患者の栄養相談の継続（写真50）
- ・ 栄養サポートチームによる「**がんと栄養新聞**」の作成（写真51）
- ・ ダヴィンチによる食道悪性腫瘍手術の保険請求開始

表4：手術支援ロボットによる手術の実績

疾病	症例数
前立腺がん	58件
腎がん	23件
膀胱がん	9件
食道がん	6件
胃がん	25件
直腸がん	17件
肺がん	16件
縦隔腫瘍	10件
胸腺(胸腺腫)	1件



写真49 がん相談支援センター



写真50 外来化学療法センターでの栄養相談

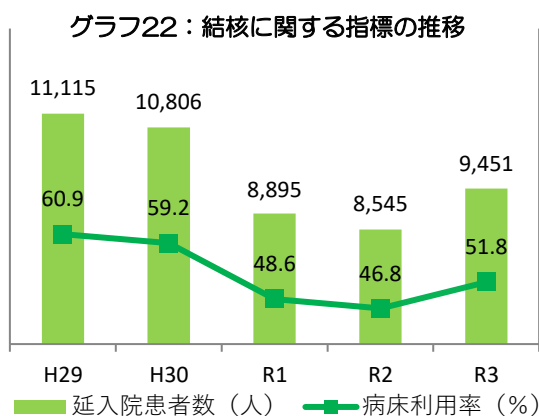


写真51 がんと栄養新聞

（5）結核医療の中核機能の提供

市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者の専用病棟、結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し、多職種介入協力のもと引き続き総合的な結核医療を安定的に提供しました。（グラフ22）

また、結核患者にも対応できるよう**血液透析室の感染症対策工事を実施**しました。（写真52）



2. 共通の役割

（1）安全で質の高い医療を提供する体制の構築

医療安全推進室を中心に、週1回ミーティングを行い（写真53）、迅速な情報収集及び分析を継続して実施しました。実際のインシデント等への対策として注意喚起文やレターを適宜発行（写真54）するとともに、関連事項について研修内容に盛り込む等、職員への啓発を図りました。（写真55）

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 画像診断レポート・病理診断レポートの既読状況を委員会等へ報告し、院内全体で見落とし防止を実施
- ・ eラーニングを活用した医療安全研修の実施
- ・ クリニカルパス※小委員会での現状把握と適用率向上に向けた進め方の検討（グラフ23）



写真52 感染対策工事を行った血液透析室

グラフ23：クリニカルパス数(件)・適用率(%)

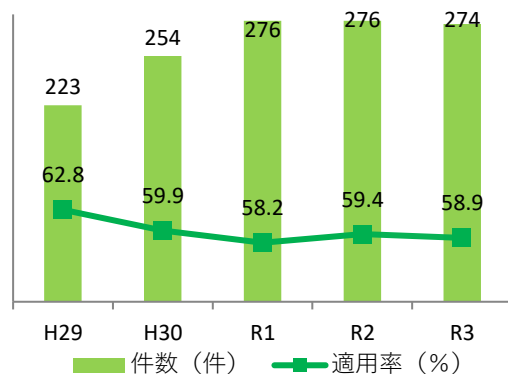


写真53 医療安全推進室のミーティング



写真54 インシデント注意喚起文



写真55 医療安全啓発活動（院内でのポスター発表会）

<クリニカルパス>

▶ 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

平日の来院患者数がピークとなる時間帯において、総合案内に看護副部長または外来看護師長を配置し、診療科相談や受診手続きの説明やアドバイス等、きめ細やかなサービスを継続して提供しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 駐車場精算機をキャッシュレス対応へ改修
- ・ 入院セットの導入（写真56）
- ・ マイナンバーカードによる医療保険のオンライン資格確認を開始
- ・ 一部パンフレットや問診票において多言語版（英語、中国語、アラビア語）を作成（写真57）

グラフ24：患者満足度調査（満足、やや満足の割合）の推移（%）

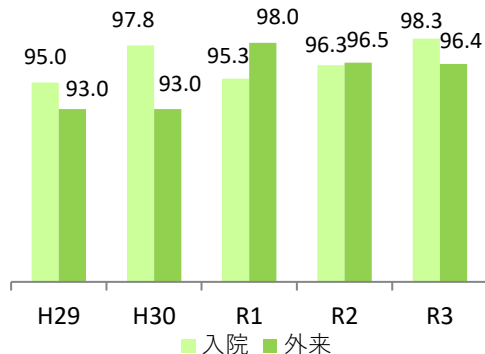


写真56 入院セット

(3) 市民への情報発信

患者や一般市民を対象とした院内広報誌「そよかぜ」の定期的な発行やホームページのリニューアル（写真58）を行いました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、身近な保健医療講座とがん市民講座をWEBで公開（写真59）し、患者や市民への情報提供を行いました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 広報誌「そよかぜ」の定期発行（写真60）
- ・ 糖尿病教室だよりの定期発行とWEB公開（写真61）
- ・ がん診療及び感染症に関する情報の提供

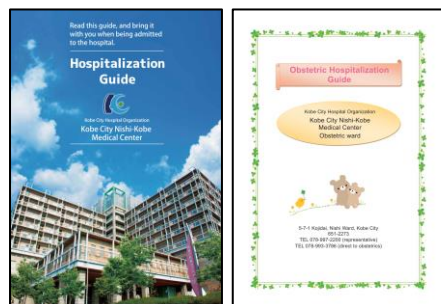


写真57 多言語版パンフレット



写真58 リニューアル後のホームページ



写真60 広報誌「そよかぜ」



写真61 糖尿病教室だよりの定期発行とWEB公開

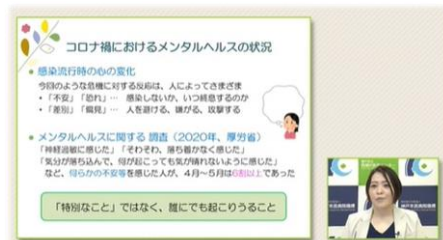


写真59 身近な保健医療講座

神戸市立神戸アイセンター病院

1. 神戸アイセンター病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 標準医療から最先端の高度な眼科医療まで質の高い医療の提供

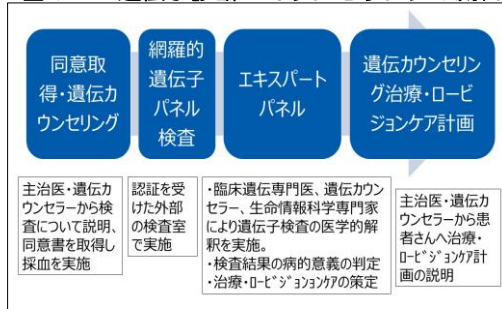
眼科専門領域を網羅した診療体制のもと、質の高い医療を提供するとともに、日中は当番医、休日夜間はオンコール体制による24時間365日体制で眼科救急にも対応しました。

オープンカンファレンスの開催や地域医療機関向けアンケートの実施等、地域医療機関との連携強化に取り組みました。（写真62）



写真62 オープンカンファレンス

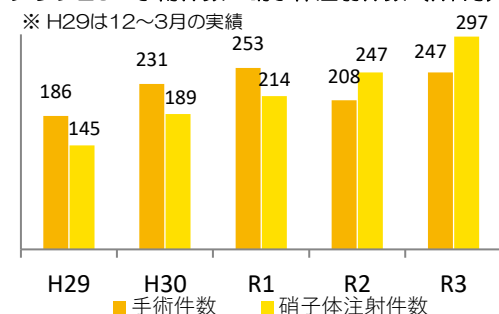
図1： 遺伝子診断・カウンセリングの流れ



◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 遺伝子パネル検査システムの臨床実装を目的とした「**遺伝性網膜ジストロフィーにおける遺伝子診断と遺伝カウンセリング**」※が、市民病院機構初となる先進医療B※として承認（図1）
- ・ 医師を増員し、外来診察室及び継続的に治療が必要な硝子体注射枠を増設し、診療機能を強化（グラフ25）
- ・ 緑内障の早期発見・治療を目的とした検診事業の試行実施、緑内障薬剤師外来の継続

グラフ25：手術件数・硝子体注射件数（件/月）



(2) 治験・臨床研究を通じた次世代医療の開拓

iPS細胞を用いた臨床研究について、移植細胞の定着率の向上が期待できる剤型を開発し、**新たな臨床研究（網膜色素上皮（RPE）細胞凝集紐移植）**を立ち上げ、国の了承を得て、移植手術に向けた準備を進めました。（写真63、64）

理化学研究所からの研究機能継承に伴い、各種規程の整備や研究室の確保等、研究センターの整備を図りました。



写真63 凝集紐移植に関する記者会見



写真64 凝集紐

<遺伝性網膜ジストロフィーにおける遺伝子診断と遺伝カウンセリング>

> 遺伝子変異が原因と考えられる遺伝性進行性の一連の疾患である遺伝子網膜ジストロフィーでは、夜盲（暗いところでものが見えにくくなる）や視野狭窄（視野が狭くなる）、視力低下が主な症状であり、進行すると場合によっては失明に至ることもある。診断・カウンセリングにより、適切な情報提供を行うことで、就学・就職への準備や家族計画など、QOL向上に役立つことを目的としている。

<先進医療B>

> 「先進医療B」とは、効果・安全性などの評価が定まっていない新しい試験的な医療技術のうち、将来的に保険適用の対象にするかどうかを判断するため有効性・安全性の評価を行う医療技術として厚生労働省が指定したもの。このうち未承認、適応外の医薬品、医療機器の使用を伴う医療技術は先進医療Bに分類される。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ i P S細胞を用いた基礎研究及び臨床研究（網膜シート移植、網膜色素上皮細胞(RPE)懸濁液移植）を継続
- ・ 特定細胞加工施設（CPF）に、汎用ヒト型ロボット（LabDroid「まほろ」）のブースを拡充し、臨床研究でも活用できる体制を整備（写真65）
- ・ 大連市第三人民病院（中国）との病院間連携に向けたキックオフミーティングを実施（写真66）
- ・ 利益相反ポリシー等の整備、研究倫理審査委員会や利益相反委員会の継続



写真65 汎用ヒト型ロボットLabDroid「まほろ」



写真66 大連市とのキックオフミーティング

(3) 視覚障害者支援施設等と連携した患者の日常生活支援

視覚障害者支援を実践する公益社団法人NEXT VISION協力のもと、患者の社会生活への円滑な復帰支援を進めることを目的とし、生活・就労相談、視覚的補助具・補装具の紹介や患者への情報発信等、視覚障害者への支援を継続しました。障害がある方への接し方を学ぶため、新規採用者等を対象に、歩行誘導研修を実施しました。（写真67）



写真67 歩行誘導研修



写真68 「ナビレンズ」の実証実験

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 視覚障害者の移動援助ツール「ナビレンズ※」を用いた実証実験の利用範囲を拡大（写真68）
- ・ 身体障害者手帳取得に関する支援※（手続きや公的制度の説明）を開始
- ・ 視覚障害者(全盲)採用(NEXT VISION)によるロービジョン外来での事前問診業務※開始
- ・ 入院中の食事に関する嗜好調査の継続実施（開始以来、初の満足度100%）（写真69）



写真69 食事の一例

<ナビレンズ>

情報が埋め込まれたタグ（四角形のカラフルな図柄）と読み取りアプリで構成。施設の壁にタグを貼り、アプリを起動してスマホをかざすと、情報を音声で知らせる。今回の実証実験では、JR三宮駅、市営地下鉄三宮駅、ポートライナー三宮駅の構内や医療センター駅など範囲を拡大し、目的までの方向や距離を案内している。

<身体障害者手帳取得に関する支援>

視覚障害者手帳取得要件（視力・視野）の該当者を眼科検査時に確認して、NEXT VISIONにて手帳取得により受けられるサービスや支援を説明し、日常生活における困りごとを解消することを目的として実施した。

<ロービジョン外来での事前問診業務>

神戸市では障害者(超短時間)雇用を進めており、視覚障害者(全盲)をNEXT VISIONにて採用し、アイセンター病院において、視機能が低下し、視覚に障害が残った状態(ロービジョン)の患者への事前問診業務を委託した。

(4) 診療・臨床研究を担う未来の医療人材育成

人材育成を強化するため、毎週水曜日を研修日とし、医師による眼科疾患勉強会や、各部署において学会報告を行った内容の報告等を実施しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- 各部門が策定した部門計画への評価を行い、評価に応じた研究費を配分する仕組みを整備
- 若手人材の研究機会の確保等のため、**連携大学院制度、大学院生リサーチ・アソシエイト制度**※を整備
- 眼科知識向上に向けた取り組みとして、眼科の専門的検査体験を実施（写真70）
- 市民病院機構全体で受講可能な対話力研修を開催
- アイセンター病院の理念を共有するため、全職員を対象としたコンセプト研修を実施（写真71）
- 市内の県立高校の研修に協力（写真72）



写真70 眼科の専門的検査体験



写真71 コンセプト研修



写真72 高校生への研修の様子

2. 共通の役割

(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

医療安全ミーティングにおいて、インシデントレポートを検証するとともに、事例検討や確認作業を実施しました（写真73）。あわせて、インシデントレポートの目標提出件数を設定し、提出件数を毎月開催の医療安全会議で確認するなど、報告への意識が高まるよう各部署への啓発を行い、目標件数を達成しました。

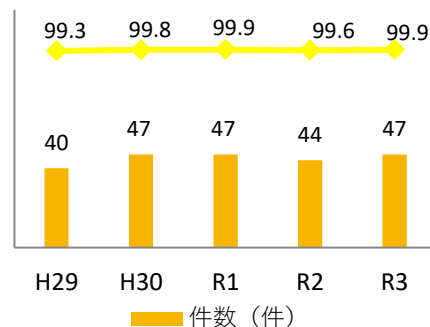
◆令和3年度の主な取り組み

- 医療安全ニュースを発行し、発生件数の多いインシデントに対する予防策や取り組みを周知
- 全職員を対象に医療安全研修を複数回実施
- 緊急時等を除き全例でクリニカルパス※適用（グラフ26）



写真73 インシデント現場確認の様子

グラフ26：クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<連携大学院制度、大学院生リサーチ・アソシエイト制度>

▶ 連携大学院制度は、アイセンター病院医師が大学院の客員教員となり、大学院生に最先端の研究教育や指導を実施する制度。大学院生リサーチ・アソシエイト制度は、大学院博士(後期)課程に在籍する学生を雇用する制度。いずれも優秀な人材を育成することを目的としている。

<クリニカルパス>

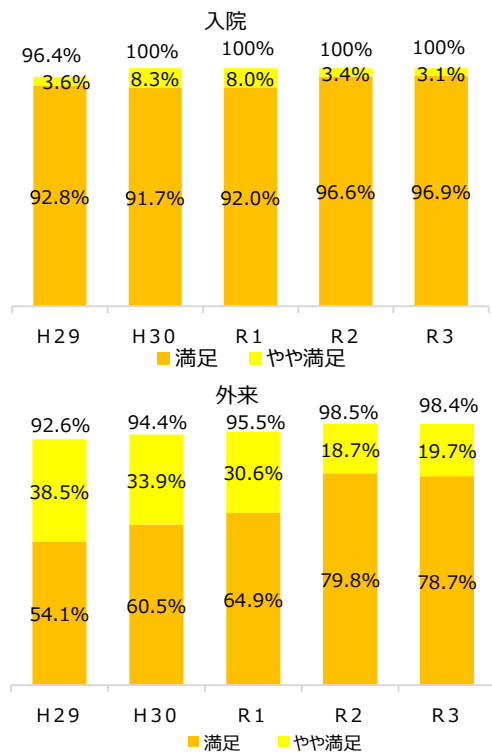
▶ 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

外来患者や退院患者へのアンケートを継続し、幹部会や患者サービス委員会で全件共有するとともに、必要な改善を行いました。

患者満足度調査では、入院・外来ともに引き続き高い満足度を維持し、入院では**4年連続100%**となりました。（グラフ27）

グラフ27：患者満足度調査（満足、やや満足の割合）の推移（%）



◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 待ち時間対策として、院外でも診察の呼出状況が確認できるように、外来表示盤をYouTubeでライブ配信（写真74）
- ・ 白内障手術説明のための患者向け冊子を作成
- ・ 糖尿病網膜症外来患者を対象に「診察前アンケート」を実施し、糖尿病の食事療法に関する栄養指導を開始
- ・ 外来待合椅子のリニューアル（写真75）

(3) 市民への情報発信

ホームページや患者向け広報誌を通じて、新型コロナウイルス感染症に対する対応、新たな臨床研究の情報、行食のお知らせ等、病院の新たな取り組みを分かりやすく提供しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 世界緑内障週間*の啓発活動参加（ライトアップ&グリーン活動）による定期検診の推奨（写真76）
- ・ 視察（文部科学大臣、日台交流サミット等）・国内外の取材（韓国の公営放送局）に対応
- ・ 兵庫県内の電子書籍を無料で閲覧できる兵庫イーブックスへの患者向け広報誌の掲載開始



写真74 YouTubeライブ配信

写真75 外来椅子のリニューアル



写真76 緑内障週間啓発活動

<世界緑内障週間>

- 世界緑内障連盟と世界緑内障患者連盟による、緑内障を多くの方に知ってもらう取り組み。緑内障は日本での中途失明原因第一位の疾患であり、早期発見に向けて、全国的に啓発を行っている。

優秀な職員の確保と人材育成

1. 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 職員の能力向上等への取り組み

オンラインでの病院見学会の実施やWEB面接を導入するなど柔軟な対応を行い、今後の神戸市民病院機構を担う新卒世代の職員に加え、即戦力として活躍できる人材の確保にも努めました。（写真77）

また、資格取得支援制度、留学制度等により職員の能力向上等の支援を継続しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- 看護職員確保のため、「特別推薦選考」を継続
- 事務職員のキャリアパスを設定し、入職1年目、5年目職員を対象に研修を実施（写真78）

(2) 職員が意欲的に働くことのできる人事給与制度の構築

人事評価結果を給与等へ反映する等、職員の能力及び業績に基づく人事給与体制の構築に取り組みました。また、主任選考の実施を継続し優秀で意欲的な職員の登用を積極的に行いました。（表5）

ワークライフバランスの確保に向け、休暇制度の整備や院内保育所・病児保育室等の運営を継続しました。

働き方改革の推進では、医師や看護師の業務負担の軽減を目指し、医師事務作業補助者等の配置を継続しました。

◆令和3年度の主な取り組み

- 妊娠、出産を希望する職員を対象とした家庭支援休職制度を創設
- 働き方相談窓口（ウェルビー支援室※）を開設（中央）（写真79）



写真77 看護職員採用パンフレット



写真78 入職5年目研修の様子

表5：令和3年度主任選考合格者数

職種	合格者数
薬剤師	4名
臨床検査技師	3名
診療放射線技師	4名
理学療法士	1名
視能訓練士	1名
心理判定員	1名
事務職員	4名
看護職員	5名

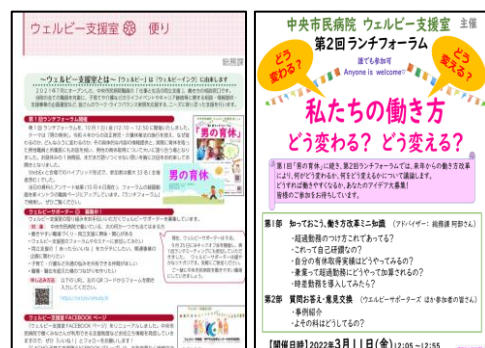


写真79 ウェルビー支援室

<ウェルビー支援室>

- 男女問わず全ての職員がワーク・ライフバランスとwell-being（ウェルビーイング）を実現するための支援と環境整備を推進する目的で開設。
- 「ウェルビーイング」（well-being）とは身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

(3) 人材育成等における地域貢献

新型コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、医師、看護師をはじめとした医療系学生の受け入れを継続し、教育病院としての役割を果たしました。

(写真80)



写真80 医療系学生向けの病院見学会の様子

2. 効率的な業務運営体制の構築

(1) PDCAサイクルが機能する仕組みの構築及び法令遵守（コンプライアンス）の徹底

理事長によるヒアリングを通じた年度計画の達成状況及び課題の把握等、機構内における情報共有を図り、PDCAを意識した取り組みを進めました。また、常任理事会や理事会における月次決算や決算見込、新型コロナウイルス感染症への対応等の報告において、病院ごとの運営状況を把握するとともに、課題が発見された際は迅速な対応を行いました。

さらに時間外勤務状況及び休暇取得状況の報告を行うとともに、所属及び個人宛への通知やヒアリングを実施するなど、法令遵守及び職員の健康確保の取り組みを進めました。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 理事長ヒアリング、院長ヒアリング、本部長ヒアリングの実施
- ・ 全職員を対象としたコンプライアンス研修の実施

(2) 市民病院間における情報連携体制の強化

法人全体のICT化を推進し働き方改革や業務の効率化を促進するため、法人本部内に「DX推進室」を設置しました。今後、令和2年度に策定した「医療情報システム最適化プロジェクト基本計画※」に基づき、実施計画ごとに実施の可否、実施年度を検証しながら最適な計画を策定し、システム最適化に取り組めます。

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 法人本部内に「DX推進室」を設置
- ・ 4病院間の患者ID紐づけシステムの構築（令和4年4月運用開始）

<医療情報システム最適化プロジェクト基本計画>

- ▶ 市民病院機構4病院の医療情報システムを、コスト・機能・運用・連携など様々な観点から評価し、次回の更新（令和8年を目途）を最適な形で実現することを目的として令和2年度に策定。

経営状況について

1. 経営改善に関する取り組みと経常収支目標の達成

(1) 共通の取り組み

各病院において院長ヒアリングを年に数回実施し、各診療科や部門における現状分析や課題の共有を図りました。また、DPCデータを活用しながら、新たな加算や上位基準の取得を進め収益増加を図りました。

(2) 中央市民病院

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 医療専門サイトに当院の取り組みを掲載
- ・ 地域医療機関からの紹介患者のWEB予約を推進
- ・ 共同購入について対象を整形外科分野にも拡大
- ・ 院長ヒアリングにて働き方改革や病院DX、南館の有効活用策、コロナ後の方策等を共有

(3) 西市民病院

◆令和3年度の主な取り組み

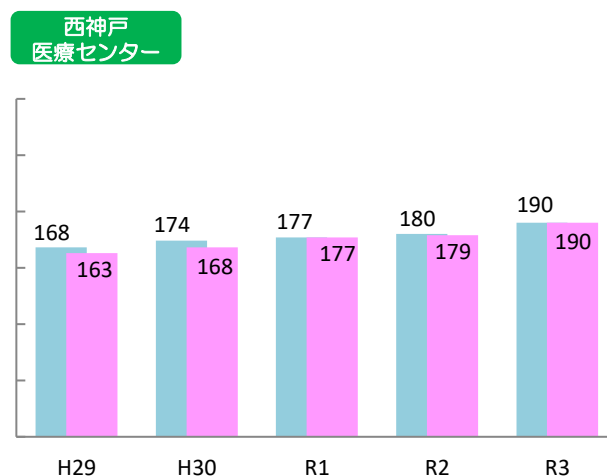
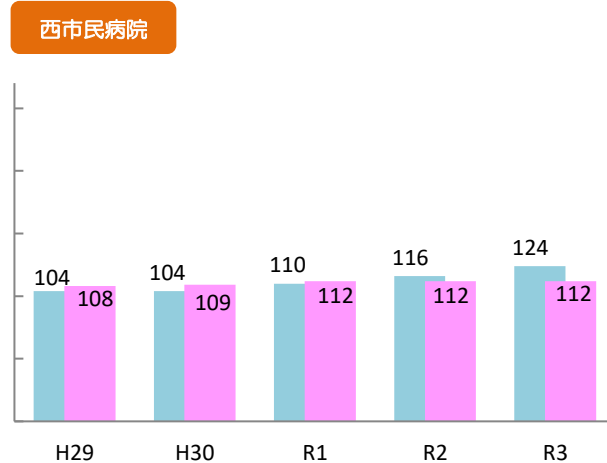
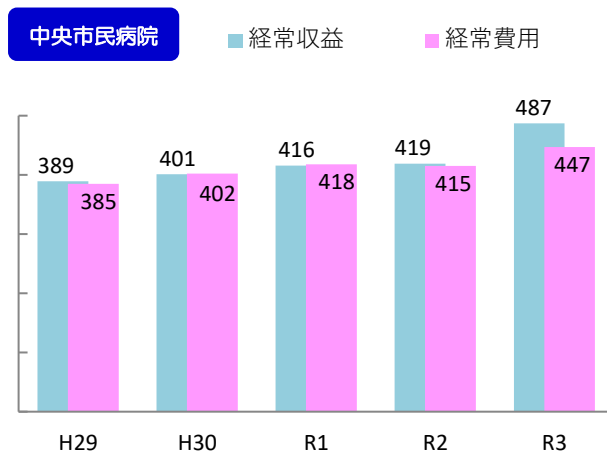
- ・ 外来診療の効率化、医師の負担軽減に向けて受付業務の集約化や業務分担の見直しを実施
- ・ 診療報酬請求業務の外部精度調査を実施
- ・ 医療専門サイトに当院の取り組みを掲載
- ・ 病棟ラウンドを通じた退院調整等、各部署協働のもと、DPCを意識した入院期間の適正化

(4) 西神戸医療センター

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 院長直轄の経営企画会議を開始し、上位の施設基準取得や費用の最適化等の経営改善策を実施
- ・ 査定分析検討会の開催による直近の査定・返戻状況把握及び改善案の策定
- ・ 後発医薬品のさらなる導入に取り組み、後発医薬品使用体制加算1を算定

グラフ28：経常収益・経常費用（億円）

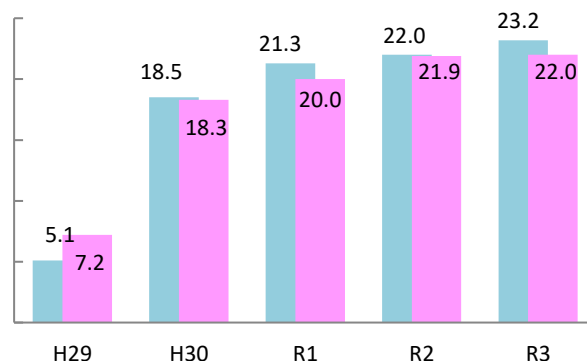


(5) 神戸アイセンター病院

◆令和3年度の主な取り組み

- ・ 外来診察室の増診、硝子体注射枠・視野検査枠の増加による収益増加
- ・ 手術枠の見直し等による収益増加
- ・ 年度計画に基づいた部門計画によってそれぞれ経営改善を図り、実績評価に応じて研究費を配分する仕組みを構築

神戸アイセンター
病院



(6) 法人本部

常任理事会を毎月開催し、病院ごとの経営指標を報告し、情報の共有と課題の抽出に取り組みました。また、年度途中で適切な執行管理ができているかどうか、四半期ごとの決算見込みや予算編成時などの機会を通じて、各病院と法人本部に対して理事長ヒアリング、本部長ヒアリングを実施し、新たな課題への対策や適切な執行管理に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症対策の補助制度を運用する兵庫県・神戸市と連携をしながら、同感染症患者を受け入れる3病院で共通する事項は取りまとめて調整するなどし、病院の機能維持と経営の安定化のために必要な財源を確保しました。

2. 経営基盤の強化

(1) 収入の確保及び費用の最適化

収益については常任理事会における月次決算の報告において、新規患者数や救急患者の受入状況、診療科別の患者数・紹介率等の各種指標を確認のうえ、単価の向上や収益の確保につなげました。

また、新型コロナウイルスの影響で目標達成が厳しい指標が多い中で、年度当初に策定した経営改善計画に加え、新たな改善項目に取り組み、4病院全体で641百万円の経営改善を図りました。

加えて、医薬品の購入の際、機構全体での値引き交渉を行うことで、2,422百万円の薬価差益を獲得するとともに、診療材料統一化に向けた取り組みを行いました。

(2) 計画的な投資の実施と効果の検証

第3期中期計画の投資計画に基づき、院内でのヒアリングを実施しながら医療機器の更新や施設設備の改良等、計画的な投資を行いました。

令和2事業年度の業務実績評価における課題への対応

◆事業実績評価における課題について

- ✓ 神戸市民病院機構では、地方独立行政法人法に基づき、神戸市からの令和2事業年度の業務実績に関する全体評価について、『全体として年度計画を十分に達成し、中期計画の達成に向けて順調に進んでいる』との評価を受けたところですが、本評価において、課題として認められた項目についての対応状況をご紹介します。

【神戸市からの課題】

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化する中で、市民病院は引き続き行政の要請に応じて感染症患者に対し適切な医療を提供する一方で、救急医療や高度医療をはじめとした幅広い医療を24時間365日欠かさず市民に提供していかなければならない。

感染症への対応と救急・高度医療の提供の両立をより確実にするため、重症患者に対応できる医療スタッフをはじめとした優れた人材の継続的な育成や感染防止対策の一層の強化に向けた施設・設備の改修、さらにはコロナ禍での教訓を踏まえた感染症対策を含むBCP（事業継続計画）の整備など、今後の新興感染症に備えるための取組みが重要と考えられる。

また、コロナ禍を契機として患者の受診動向や医療サービスのあり方、医療従事者の働き方など病院を取り巻く環境は大きく変化しており、今日進展著しいICTを積極的に活用しながら、費用の最適化や働き方改革、業務の効率化などをこれまで以上に強力に推進し、ポストコロナ社会における強固な経営の基盤を構築していくことが求められる。

◆令和3年度の取り組み状況

今後の新興感染症に備えるための取り組み

- 重症患者に対応できる医療スタッフをはじめとした優れた人材の継続的な育成
 - ・集中治療看護に要する技術を備えた看護師育成のため、令和3年度より必要数より50名多く採用することで、育成に努めている。
- 感染防止対策の一層の強化に向けた施設・設備の改修
 - 【西神戸医療センター】
 - ・救急外来に感染対策と迅速な初療診断に必要なCT室を整備した（令和3年12月）。
 - ・救急外来の感染症対策として、感染症対応の診察室及び処置室を設置する（令和4年4月末完成）。
- 感染症対策を含むBCP（事業継続計画）の整備
 - ・現在、各病院においてBCPもしくはそれに準ずるものとして防災・災害マニュアルを作成・運用しているが、感染拡大期の長期化や重症患者数の増加など当初の想定を超えるような事態も発生したことから、これまでの経験を踏まえて、現状のBCPを評価・改訂し、今後想定されるさらなる感染拡大期にも対応可能となるようにBCPの見直しを図ることで、継続して市民に医療を提供できるよう取り組んでいく。



◆令和3年度の取り組み状況

ポストコロナ社会における強固な経営の基盤を構築

○ICTを積極的に活用した費用の最適化や働き方改革、業務の効率化

【4病院の電子カルテの最適化】

- 病院間をつなぐ専用ネットワークの整備を行い、患者紐づけシステムを導入した。これにより、例えば中央市民病院で受診歴がある患者が西市民病院を受診した際に、中央市民病院での受診記録をより迅速に参照できるなどの効果がある。

【医療分野・患者サービス分野におけるICTの活用】

- マイナンバーカードを健康保険証として利用できるオンライン資格認証システムを10月から4病院で稼働した。
- 放射線診断医が在宅においても画像診断が可能となる在宅診断システムを中央市民病院で導入した。

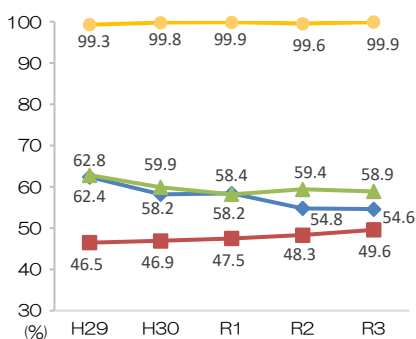
○さらなるDXの推進

- 今後の医師の働き方改革や新興感染症への対応として、さらにDXを推進していく必要があることから、令和3年11月に法人本部にDX推進室を創設し、機構を上げて取り組みを進めた。具体的な取り組みとして、スマートフォンを用いた業務改革、タブレット問診、診療費後払いシステム等を考えている。

医療機能等指標・主要経営指標の推移

凡例：中央市民病院は ◆ 西市民病院は ■ 西神戸医療センターは ▲ 神戸アイセンター病院は ● で表示

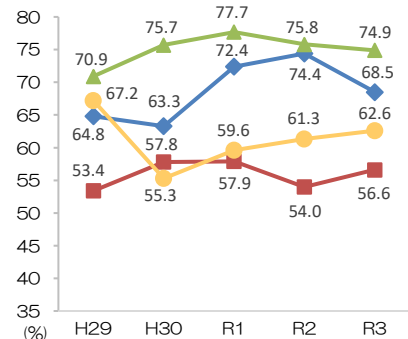
(1) クリニカルパス適用率



<令和3年度計画目標値>

中央市民病院	60.0%以上
西市民病院	50.0%以上
西神戸医療センター	60.0%以上
神戸アイセンター病院	99.0%以上 達成

(2) 紹介率

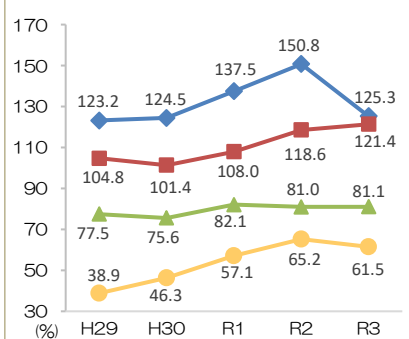


<令和3年度計画目標値>

中央市民病院	72.5%以上
西市民病院	55.0%以上 達成
西神戸医療センター	70.0%以上 達成

※神戸アイセンター病院は、紹介患者数により1日9.7人と目標を設定し、1日9.9人という結果だった。
※神戸アイセンター病院：平成30年度より算定方法を変更

(3) 逆紹介率

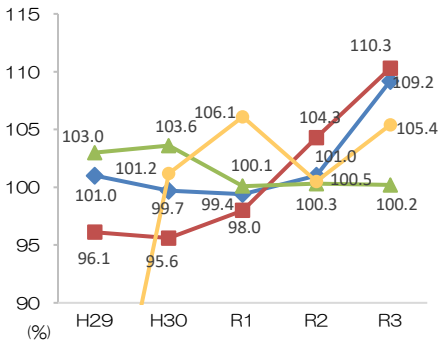


<令和3年度計画目標値>

中央市民病院	135.0%以上
西市民病院	100.0%以上 達成
西神戸医療センター	75.0%以上 達成

※神戸アイセンター病院は、逆紹介患者数により1日9.3人と目標を設定し、1日9.8人という結果だった。

(4) 経常収支比率

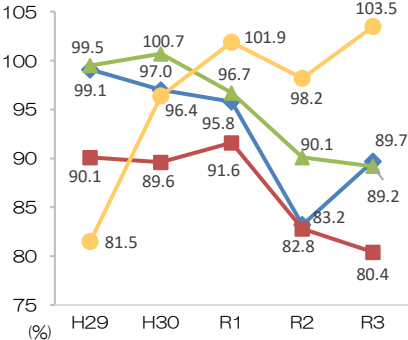


※アイセンターのH29年度は70.5%

<令和3年度計画目標値>

中央市民病院	99.5% 達成
西市民病院	101.6% 達成
西神戸医療センター	98.4% 達成
神戸アイセンター病院	100.1% 達成

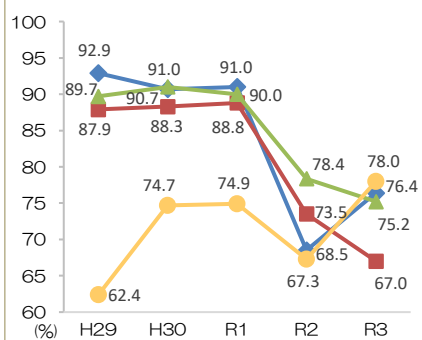
(5) 医業収支比率 ※運営費負担金を除く



<令和3年度計画目標値>

中央市民病院	90.3%
西市民病院	84.4%
西神戸医療センター	91.5%
神戸アイセンター病院	98.1% 達成

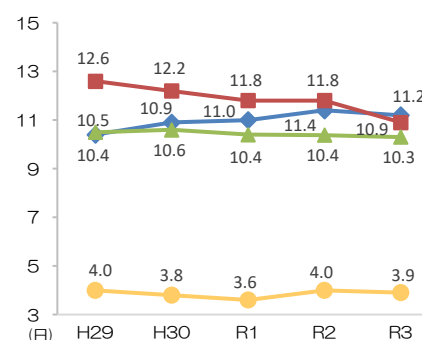
(6) 病床利用率 ※感染症病床、結核病床を除く



<令和3年度計画目標値>

中央市民病院	76.0% 達成
西市民病院	77.3%
西神戸医療センター	83.0%
神戸アイセンター病院	78.4%

(7) 平均在院日数

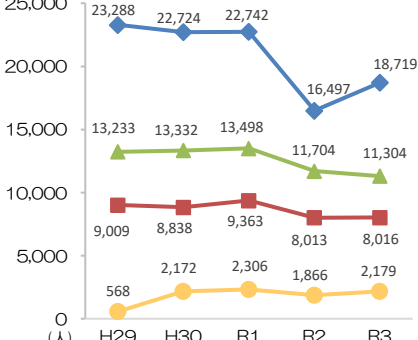


<令和3年度計画目標値>

中央市民病院	11.5 以下 達成
西市民病院	11.8 以下 達成
西神戸医療センター	10.5 以下 達成
神戸アイセンター病院	3.9 以下 達成

※西：地域包括ケア病棟を含まない

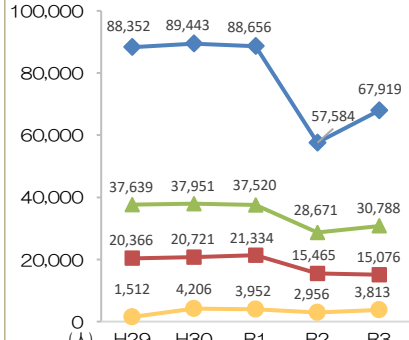
(8) 新規患者数(入院)



<令和3年度計画目標値>

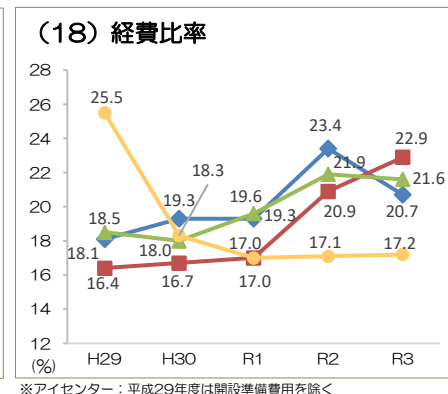
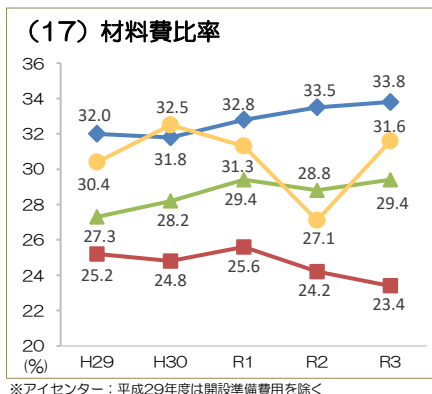
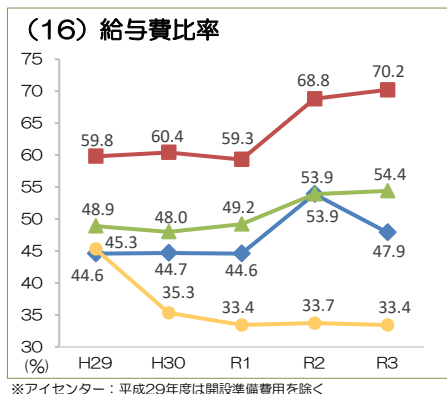
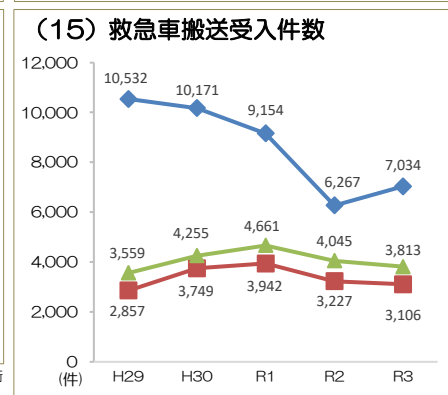
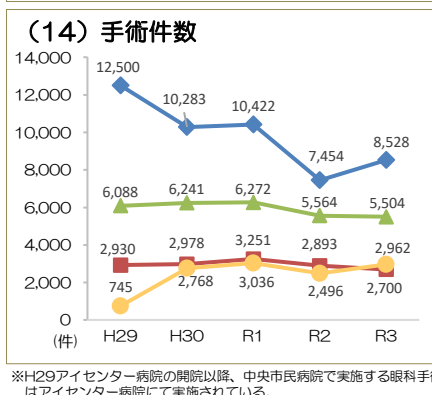
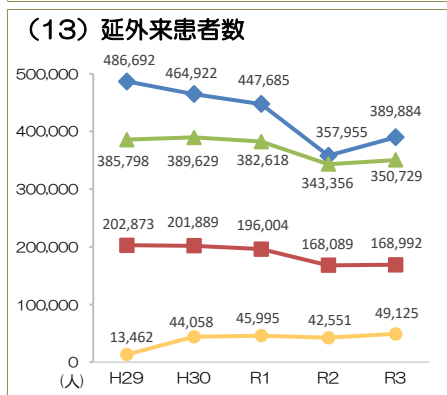
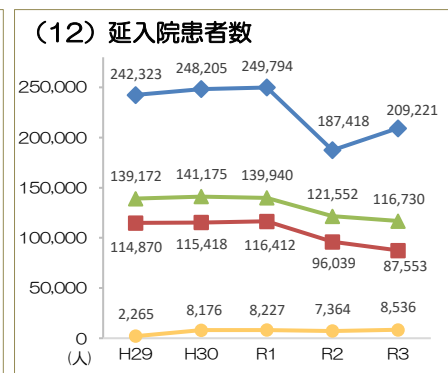
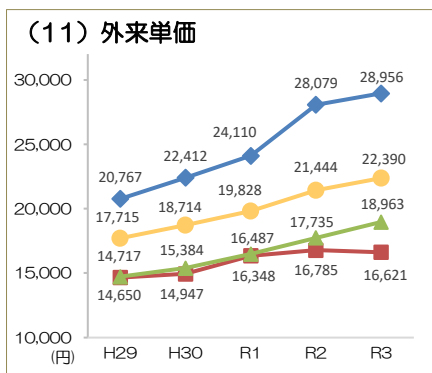
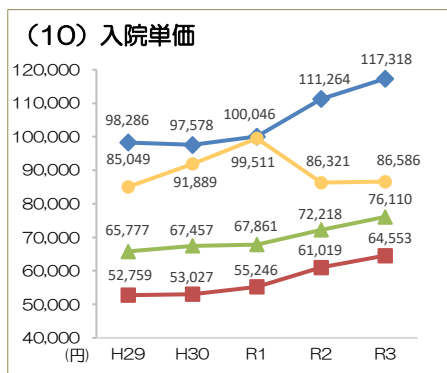
中央市民病院	18,173 以上 達成
西市民病院	8,484 以上
西神戸医療センター	12,408 以上
神戸アイセンター病院	2,170 以上 達成

(9) 新規患者数(外来)



<令和3年度計画目標値>

中央市民病院	63,386 以上 達成
西市民病院	16,680 以上
西神戸医療センター	36,080 以上
神戸アイセンター病院	3,834 以上



経常損益・単年度資金収支

